



令和6年度羽田中学校だより

天空の橋

令和7年3月21日

目指す生徒像…

Heart
Never Give Up
Do Our Best

大田区立羽田中学校

式辞

三寒四温を繰り返しながら、春の訪れを確かに感じられる今日の佳き日、卒業式を迎えた第七十七期卒業生のみなさん、そして、保護者の皆様、本日はご卒業誠におめでとうございます。

卒業生の皆さんがこの羽田中学校に入学したときは、まだ新型コロナウイルスによる行動制限が行われていたときでした。小学校5年生、6年生と大事な時期に、多くの制限をされてきた皆さんが、どのような状態で入学してくるのか、不安と責任感を感じたことを覚えています。入学時の皆さんはしっかりとしており、安心しましたが、やはり集団としてのパワーは感じず、コミュニケーションが苦手な生徒が多い印象でした。しかし、中学校生活で多くの活動を重ねるうちに、お互いの関係がどんどん深くなり、それとともに協力してみんなで行動できる集団に成長していく姿を目にしました。学習だけでなく、社会性を養うのが学校です。中学校で必要な力を皆さんはしっかりと身につけることができたと思っています。先ほど渡した卒業証書は、その証しだと思ってください。卒業を迎えるにあたり、そんな、将来が嘱望できる皆さんだからこそ伝えたい話をお話します。それは、「志をもって生きよう」ということです。では、「志」とは何でしょうか。

私はよく「ああ、宝くじが当たらないかなあ」と思います。しかも、年末ジャンボ宝くじで前後賞あわせて10億円。10億円あったら、あんなこともこんなこともできるのに～。でも、これは夢とは言えるものですが、「志」ではありません。「志」は、「環境破壊を何とかしたい」とか、「この町の商店街を活性化したい」など、自分のことだけではない、他の人のため、社会のためになることをしたいという「思い」です。社会正義の実現といってもいいかもしれません。

皆さんが、これから生きていく中で「これはおかしい」「何とかしたい」ということは、出てくると思います。「志」は、そんなとき「文句を言ったり」「逃げてしまう」のではなく、その状況に合わせて生活しながらも「今に見ていろ、俺が何とかしてやる」という思いです。「憤り」や「野望」に似ている気もします。これから皆さんが生きていく社会には、多くの課題が予想されています。「少子化による経済の縮小」、「格差の拡大」、「温暖化等の環境変化」……、そういった課題がある状況に流されるだけの人になるのではなく、主体的に解決を目指す人として生きてほしいのです。解決を目指す課題は、今あげたような大きなものでなくても構いません。「自分が開発した製品で少しでも多くの人生活を便利にしたい」とか、「もっと多くの人に祭りに参加してもらいたい」「この町を活性化したい」という身近な生活からでることも、とても大事です。もちろん、また、そういった「志」が見えない人もいます。「志」は現実社会の実際を学んだり、多くの経験から生まれるものです。これから自分の進んだ進路において、多くの事柄を学び、経験を積む中で自

分なりの“志”をつくって欲しいと願っています。しっかりと学習し、深く考えることができる皆さんなら、「志をもって生きる」ことが可能なはずです。もちろん、“志”があっても、実際にそれがすべて実現できるとは限りません。でも、それでいいと思っています。社会課題の解決だけが重要なのではなく、“志”をもって生きること自体が、幸せな生き方につながるものだからです。

精神科医の先生に、ある患者さんの話を聞いたことがあります。その患者さんは、肝硬変という肝臓の重い病気で亡くなったそうですが、田舎の山持ちの一人息子でした。50いくつも山があって、1年にひと山ずつ山の本を売っていきます。すると、50年目に元の山に戻ります。50年経つと、すっかり杉は育っていますから、莫大な収入が毎年毎年あるのだそうです。つまり、新しいことを開発しなくても食べていける状態です。お父さんが亡くなり、若社長になって出勤すると、番頭さんたちが「若社長、先々代から我々がずっとやってきていますから、若社長のほうはあまり口を出さないでまかせてください。ちゃんとやりますから。お金もちゃんと渡しますし、経営のほうはまかせて、好きなことをやってください」と言う。そして、実際に、番頭さんの言うとおりにして、とりあえず遊びはじめた。遊びは、やりたいことはひととおりやったんだそうです。うらやましいと言えば、うらやましいのですが、十年もやり続けると飽きてしまった。むなしくなっていました。だから、お酒にはまった。そのうち結婚して子どももできた。それでもお酒がやまない。でも、彼が飲んだくれていても、別に誰も困らなかった。収入はちゃんとあるし、悪い酒ではない。ただ、機嫌よく飲んでるだけです。友達にもばんばんおごるんですけれど、それも莫大な大金持ちだから、全然こたえない。とうとう肝臓がダメになってしまって、30代の後半で肝硬変になって入院した。ところが病院を抜け出して飲む。話を聞くと、やっぱり気の毒なんだそうです。その患者さんはいい大学を出ていて、男前だし、自分の能力に自信がある。自分のことが嫌いではない。番頭さんたちが彼を裏切って、会社を乗っ取るなんてことは全然思っていなくて、実際ちゃんとやってくれる信頼できる人なわけです。奥さんと仲が悪いわけでもない。だから、他人のことも信頼している。ただ、自分が役立たずだということをひしひしと感じる。「私はこの世にいないでもいい人間だ」と感じずにはいられない。酒を飲んでいるときだけそれを考えないですむ。素面でいると、「俺は何のために生きているのか」と考えてしまう。こういう依存症は治らない。全然だめなんだそうです。その精神科医の先生は言ったそうです。「そんなことしていたら、あなた死にますよ」「死んでもかまいません。生命保険に入ってますし、どうせ会社は息子に相続されますし、何もかまいません」「奥さん嘆くでしょう」「今だって、たいして役に立っていないんだから……」どうでしょうか。生きがい・やりがいがないと人生はむなしくなります。逆に、自分なりの“志”をもち、社会に貢献しながら生きていくことは、幸せにつながります。実際、ボランティアや、地域のために活動することで、イキイキと生活している人が、この羽田・糺谷地区には大勢いらっしゃいます。

皆さんには、“志”をもって「幸せ」を感じながら生き、その上で少しでも皆さんの力で世の中をよい方向につくってくれることを期待したいのです。これまで、皆さんは多くの方に見守られ、サポートされて生活してきました。お世話になった方々に感謝するとともに、これからは羽田中学校を支えてくれる側、地域・社会を“志”をもって支える側になってくれるとうれしく思います。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。この三年間、至らぬ点やご心配をおかけしたことも多々あったことかとは存じますが、保護者の皆様からは、本校の教育活動や教職員に対して、多くのご理解やご支援・ご協力を賜りました。この場をお借りして、深く感謝し、お礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

結びに第七十七期生73名の卒業生一人一人の輝かしい未来への旅立ちを祝して、式辞といたします。